

表彰式写真



祝芸2



祝芸1



穴井選考委員長



善行会の歌

受賞者の喜びの声

●●春季表彰●●

善行表彰を受賞して

京都中国料理師会

「琢磨会」



この度、第六十七回春季善行表彰の栄を賜り、心より厚く御礼申し上げます。
当会は、一九八二年に自分達の持てる技術で世の中の為に奉仕活動をと、結成され三十五年になります。食べ盛りの児童養護施設の子供たちや外出がままならない老人ホームのお年寄り

善行表彰を受賞して

東京都立大崎高等学校

防災活動支援隊

この度は、平成二十九年度春季・善行表彰を賜り、心より感謝申し上げます。
平成二十四年度、本校は防災教育推進校に指定され、防災活動支援隊が結成されました。防災活動にあたっては、生徒の自主性を大切にし、四十名の生徒が自発的に集まりました。
町内会の防災訓練に参加した隊員たちは、参加者の多くが高齢者で、最初は戸惑っていましたが、すぐに打ち解けて放水訓練や炊き出し訓練に積極的に加わるようになりました。
休憩時間、お年寄りと隊員



や視覚障害者施設の方々に、年四十回前後調理奉仕に出かけて、全国二十二府県一一七〇回を達成する事が出来ました。昨年十一月に長崎市の児童養護施設「明星園」で中国料理をプレゼントし、後日、子供たちの寄せ書きと園長先生の礼状が届きました。「普段は、雰囲気は芳しくないグループの子供たちが、料理に舌鼓を打ちながら、何時になく会話を弾み、食の力を実感しました。」とあり、子供たちからは「ありがたう、美味しかった。また、来て欲しい。」とありました。喜んでいただけたことに感謝です。でも長崎は遠い所でした。
中国の諺に「積善之家必有余慶」とあり、「善行を積み重ねた家には、その身だけでなく必ず子孫にまで及ぶ福沢がある」とあり、この言葉を大切に、これからも善行表彰の受賞を励みに、調理奉仕活動を継続していきたい、多くの方々に感謝したいと思います。

善行表彰を受賞して

東京都板橋区

神田流弥生雛子保存会

当保存会は明治初期に東京神田から地元板橋区弥生町に伝承された祭囃子(神田囃子)を組織的に継承するため、昭和三十三年に設立されました。また、日々の稽古・イベントの中で礼儀作法・感謝と協調性等、青少年の健全育成と祭礼等地域社会の活性化をも活動目的としており、昭和五十九年度には板橋区無形文化財に指定登録されました。
この度、歴史と伝統ある日本善行会善行章を賜りましたこと、会員一同厚くお礼申し上げます。これは板橋区・地元自治会はもとより、多くの皆様のご支援と諸先輩方の長年のご尽力があればこそと、改めて感謝申し上げます。後継

善行表彰を受賞して

神奈川県川崎市

前川 友太



この度、春季善行表彰を頂くことができ、本当にありがとうございました。
小学校一年生の時に子供会活動を始め、楽しい活動と思い中学生からJL(ジュニアリーダー)の活動を始めました。JLは、小学生の見本となり、レクリエーション等を行います。役員の皆さんやJLの先輩からレクリエーションやJLと

者の育成問題では毎年地元小学校による体験学習授業と保存会による寺小屋学習で小学生が入会し、毎週土曜日熱心に稽古に励んでいます。郷土芸能の修得には時間を要します。「教える・教わる」ではなく友達感覚でお茶飲み話も楽しみながら、これからも地道に世代間交流を続けてまいります。



◆特別表彰◆

●●金 章●●

すばらしい人達に
囲まれて

広島県三原市

薬本 光明



私は、昭和四十八年から、広島県内の小中学校に、図書を寄贈させていただいております。
今年で四十四年になります。図書も四万冊になります。

●●銀 章●●

子供たちの声に
励まされ

岩手県北上市

高橋 英正



この度、歴史と伝統のある日本善行会より栄ある特別善行銀章を賜り、心より感謝し、お礼申し上げます。
私は、昭和四十六年より交通指導員として、子供たちが通う通学路で街頭指導をして参りました。

りました。小中学校延べ四百三十七校に学校からの希望図書を贈らせていただいております。
これから社会福祉や子供たち、あと十年は頑張りたいと思います。
中国五県に、今から二万冊、合計六万冊、六百校を目標に頑張りたいと思っております。
五月二十日、すばらしい人達に囲まれて、受賞させていただきありがとうございます。
善行会の皆様や受賞された皆様に感謝し、厚くお礼申し上げます。
先輩を見習い社会福祉や小中学校の図書寄贈運動に励まさせていただきます。

交通安全運動は終わりのない運動だと言われています。朝、子供たちから「おはようございます」と言う元気な声に励まされ、次の日子供たちと逢うのを楽しみにしながら続けてくる事ができました。これからも、子供たちの成長を楽しみながら活動を続けて行きたいと思えます。私の地域でも少子化時代と言う波が押し寄せ、子供たちが少なくなってきましたが、これからも体力の続く限り少しでも役にたたいと思っておりますので、皆様のご指導を宜しくお願いいたします。
結びに、日本善行会の益々の発展と会員皆様のご健勝での活躍をご祈念申し上げます。